

日本人の「配慮」

キョウ エンニョ
教育学部 交換留学生 中国

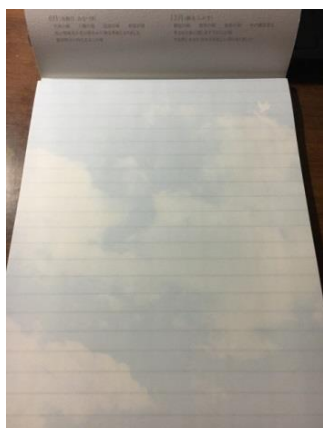
日本に来てからもう2ヶ月が経った。いろいろな体験の中で、一番印象深いのは、日本人の配慮である。

「配慮」と言えば、皆様は「気配り」、「思いやり」、「丁寧さ」というプラスのイメージを思い出せるだろう。日本人は、生活の中で、どのような配慮を表すのか。大きく見ると、言語と行為を二つの面に分けられると思う。

まず、言語の面から見れば、書き言葉と話し言葉の場合がある。現代の日本社会では、電話とメールは最も使われる連絡方法だが、その中でも、「配慮」が見られる。電話とメールをする際に、常にたくさんの前置き表現と文末表現がある。例えば、電話で、「夜分遅く申し訳ありませんが」という前置き表現から話を切り出すことがある。ここには「夜分遅く電話はしないものだ」という世間一般の考え方を無視して電話していることに対する「自責の表明や相手への配慮」の意識が働いていると考えられる。メールで、いつも「返信が遅くなり申し訳ありません」や、「よろしく願いいたします」など、丁寧な言葉を加える。そのような言葉を使うと、相手にあまり厳しくない、柔らかいイメージが与えられ、「配慮」が感じられる。

話し言葉の場合の自他動詞の転換も配慮の一部分である。例えば、友達の家で食事する際に、主人は「ご飯を作りました」の代わりに、「ご飯ができました」と言うだろう。なぜなら、自動詞の「できる」より、他動詞の「作る」を言えば、「今日のご飯はお客様のためにわざわざ用意する」という重い気持ちがお客さんに伝えられるからだ。という訳で、自動詞を使えば、お客さんはもっと気軽にご飯を楽しんでくれるのだ。

その他、行為の面から見ると、大きなことだけではなく、細やかなところまでも「配慮」が感じられる。現在、日本の製品は世界で人気がある。その中で、非常に重要な一つの原因は、違う人間の習慣に相応しいデザインであろう。例えば、日本の地下鉄の車両内には誰でも握りやすいよう、高さの異なる



吊革がある。牛乳パックの最上部に小さなくぼみが設けられており、目の不自由な方たちが空け口を判別できる。

先日、私は文房具店で便箋を買った。最初は、便箋の中身は空白のデザインのため、字を書く際に、よく字が斜めになると悩んでいた時、パッケージのチェック柄の紙に気づいた。そのチェック柄は、便箋の下に置いて書くと、字が斜めにならなくなるというものだったのだ。そのような細かいところにも気づいたデザインは、やはり日本の製品だと思った。

上述のように、「配慮」は、相手に迷惑をかけないように、他人の立場に立って、気持ちをちゃんと理解するという表現である。

「配慮」は、人間関係の中で、大きな役割があって、良好な人間関係を保て、調和の社会を作る欠かせない表現である。人間関係を築くことを非常に重視する日本人達は、子供時代から、「他の人に迷惑をかけないように」と言われて育ってきた。しかし、中国人はそういう考え方が少ないと思う。その点から見ると、日本の大切な「配慮」という考え方は中国人が勉強するに値すると私はそう思う。